

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念、方針があり事業所内のホールに掲げている。	○	一人ひとりのその人らしさをより掘り下げて支援に努めたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議においては、理念、方針を唱和を通じて内容の確認、理解に努めるようにしている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	年間を通じての大きな行事の際に地域の方々をお招きして交流を持つ中で理解をして頂くと共に、パンフレット作成や階寿園広報誌、花みずき便りの作成や配布により理解を深めて頂けるように努めている。	○	地域の方との交流の機会を随時増やせるように努めたい。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方々に防災時の協力が得られることや夏祭り等にお招きして交流に努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園との行き来や事業所が開催する地域交流会や納涼会にお招きすることによって地元の方々との交流に努めている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々の声を聞かせて頂くために、日頃から協力頂いている民生委員の方や町内会長の方々と、そして併設事業所職員と共に地域交流会を開催している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価により、現状を把握することができ、改善点については諸会議において検討して改善へ繋げている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーの意見や提案を参考にサービスの向上に努めている。(地域交流会への参加協力を得たり、お宮のお祭りへの参加等)		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーである地域包括支援センターの職員を通じて市の担当者との繋がりがあり、またグループホーム協議会を通じて市の担当者との意見交換を行うことができる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加したり、施設内研修で理解を深めている。入居の際にはご家族へ説明をしている。必要な方には活用できるように支援している。	○	随時、外部研修へ参加して職員全員が周知できるように努める。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の研修や施設内研修、施設内委員会において虐待に繋がらないように学習に取り組んでいる。	○	定期的に委員会で議題にし意見交換して虐待に繋がらない取組みに努める。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には契約書、重要事項説明書を基に利用にあたっての説明を行い、十分に理解された上で利用して頂けるように支援している。		

福岡県 グループホーム花みずき 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に対して意見箱の設置、重要事項説明書 に苦情相談窓口の掲載、ホールに苦情相談窓 口の連絡先と第三者委員の配置について掲示 し介護サービス相談員の受け入れをしてい る。苦情については記録に残し、即時に対応 して改善に努めている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	毎月、請求書をお送りする時に近況を記した ものと預かり金の収支報告書、花みずき便り を同封している。何か体調面で変化がある時 には、随時電話で報告している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に対して意見箱の設置、重要事項説明書 に苦情相談窓口の掲載、ホールに苦情相談窓 口の連絡先と第三者委員の配置について掲示 し介護サービス相談員の受け入れをしてい る。苦情については記録に残し、即時に対応 して改善に努めている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	定期の会議の中において疑問、質問事項の意 見交換を行ったり、運営者からの説明を受け 早期改善に努めている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	利用者の状況の変化に応じて、サービスの低 下に繋がらないようにするため職員間や運営 者と随時、話し合い行い対応している。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の継続勤務のための一つの方策として雇 用契約の見直し、改善などに取り組んでい る。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては性別や年齢等、特に制限は設けていない。個人の意欲を尊重して、採用後もそれぞれの長所を生かして頂けるよう望んでいる。(レクリエーションの担当、行事の企画等)		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修への参加を促進することや、研修へ参加した職員が、会議の時間を通じて参加していない職員へ研修内容を伝えていくことで全員が周知できるように努めている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修への積極的参加を促し、また職員の資格取得については、より専門性のある資格取得を呼びかけている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、情報交換を行い職員研修等も受けている。他のグループホームとの行き来を行ない交流に努めている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護サービス相談員の受け入れや、職員の勤務シフトに希望する休みを入れてプライベートの時間を尊重できるようにしている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得の奨励や研修等への参加を促進して職員の技術の向上、知識の習得を図ることで向上心に繋がるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談から実際に入居に到るまでに、本人の困っていることや不安なこと等を理解する上で、十分に話を伺える時間を持つことや本人からも話しやすい雰囲気作りすることに努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談から実際に入居に到るまでに、困っていることや不安なこと等を理解する上で、十分に話を伺える時間を持つことや誠意を持って対応することに努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、適切なサービスの利用ができるように関係機関へ問い合わせをしたり、関係機関へ繋げる支援に努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験利用等を通じてサービス内容を理解して頂いた上で入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を通じて、特に家事活動においては経験からの知恵を参考にさせて頂いている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の様子を報告することや介護計画作成時において希望を伺うことを通じて共に利用者を支えていくチームとなれるように努めている。	○	家族交流会を開催して交流を深める機会を増やしたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的に花みずき便りを同封したお便りを送付することで近況を報告することや遠方のご家族へは電話を取り次ぐように支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に訪問して頂けるよう、また馴染みの場所への訪問ができるように支援している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者間の交流が図れるように全員で楽しめるレクリエーションや外出を計画したり出来ることへの支援に努めている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時には何かお手伝いできることがあれば連絡頂けるようお伝えし、退去先の施設へ訪問させて頂くこともある。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の想いを尊重した介護計画を立てて支援するように努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に確認するように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	基本的には、一人ひとりの介護計画に沿って生活して頂けるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望と主治医の意見や職員の意見から、本人がより良く暮せるような介護計画を作成するように支援している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じて本人、家族、主治医や職員と相談して介護計画書を現状に即した計画書に変更するように努めている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記載して、朝礼や会議の中で職員間で情報を共有できるようにして介護計画の見直しにも活かせるように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスセンターのレクリエーションへの参加や受診や病院の入退院時の付き添い等協力できるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方が折り紙教室や編み物教室を開いており、他にも学生や大正琴演奏のボランティアを受け入れている。また防災訓練では消防署員の協力を得たり、隣接の警察官舎の住民から緊急時には協力が得られる。		

福岡県 グループホーム花みずき 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は特に活用していないが、必要に応じて支援できる。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員が運営推進会議のメンバーであることから相談へ繋げやすい。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望されるかかりつけ医があれば、継続して受診して頂けるように支援している。かかりつけ医からの情報提供は随時頂けるようにしている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に認知症について相談できる医療機関があり、必要時には相談や受診ができる。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に一度看護職員が勤務する日があることや併設施設に看護職員が勤務していることで相談ができる体制になっている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、お見舞いに伺った時に病院職員へ状況確認を行い、個人ケースに記録している。情報交換により、早期退院へ繋がるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い家族、主治医と連絡を密に取り現況において最善の方針を立てるように努めている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医の意見と職員間で話し合った事業所でできることを家族へ説明して、現況において最善の支援ができるように努め、今後想定できる状況においても対応を決めておくようにしている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の日頃の思いや生活の様子、必要とする援助についてケア関係者へ情報提供を行い、できる限り円滑に住み替えができるように努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に年長者に接するという念頭において、誠意ある態度で職務に徹するように努めている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の好きなことや、やってみたいことなどを確認しながら生活の中に取り入れるように努めている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、本人の体調や思いに沿って生活できるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服の選択は本人の希望に沿うようにしている。理容については事業所に来る理容サービスを利用しているが、その際は本人の希望どおりの髪型になるよう、好みを聞き、理容師に伝えている。	○	行きつけの理容店を希望される時は家族付き添いにて行かれている。今後、他利用者より外部の理美容店利用の希望があった際は、出来るだけ希望に沿えるよう検討する。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、配膳、下膳を一緒に行い、職員、利用者が一緒に食事を摂っている。また月に2度ずつ希望昼食作り、希望おやつ作りを計画し、希望食を頂く機会を設けている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこ等希望あれば家族、主治医と相談の上、楽しめるようにしている。嗜好品は週1回事業所に来る売店を利用し、好きな物を購入する機会をもうけている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の状態を排泄パターンから把握して必要な介助を行い失禁予防に努めている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後から入浴できる体制にしている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間を特に設定はせず、自由な時間を設定している。但し、居室にテレビがあり、深夜に見られる方については、他居室の方の入眠の妨げにならないよう声かけにて協力をお願いしている。	○	(取り組んでいる事) 入眠に問題がある方は、日中の活動のあり方(レクリエーションや家事活動の参加、外出の参加)を検討し、時には家族や主治医と相談して薬の調整も行う。また足湯なども行って様子を見ている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	めりはりのある生活を送れるよう、様々なレクリエーション(製作、運動、音楽、学習など...)を取り入れたり、ドライブや食事作り、デイサービスでのレクリエーション参加を企画し、参加してもらう。それにより一人ひとりの個性や特技を見つけ、生活に生かせるよう努めている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては、小銭～1万円程度のお金を自分で所持しており、売店や外出の際はお菓子などを購入している。また入居者より希望があれば、預り金からお小遣いとして使うことができるよう、家族の了解を得ている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出、散歩の希望ある時は、職員が必ず1人は付き添い出掛けられようようにしている。また毎月の行事にドライブ、散歩日を設定し、外出の機会を設けている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	絵画が好きな方をメンバーに入れた美術館見学や、家族の方の付き添いでお墓参り、買い物などへ出掛けている。また事前に連絡、希望があれば、出掛ける準備等支援している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はコードレスで居室で使用することも可能であり、手紙の代筆も行っている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間の設定はあるが、家族より要望があれば、出来る限りの時間外面会も対応している。面会に来られた際は、近況を報告し、ホールや居室どちらでもゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修や事故防止委員会を通じて「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中入り口、居室ともに鍵をかける事は行っていない。夜間の戸締りの為、入り口のドアは鍵をかけているが、それ以外の約7:00~19:00の間は鍵をかけていない。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にホールに見守り職員がいるように努め、利用者の状況を把握できるように配慮している。夜間は、巡回、個別ケア以外は常にホールにいて、対応できるよう努めている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食を防ぐ必要のある方については、普段は職員が預り、必要時に使用できるように努めている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故時の対応については、マニュアルにまとめ、会議の時間を利用して周知に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応や事故時の対応についてはマニュアルにまとめ、会議の時間を利用して周知に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、年に6回行い、災害時には隣接の警察官舎の住民の協力が得られる。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故に繋がることが想定される場合は、その旨家族へ説明して、対応策を関係者と協議している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝と入浴前は必ず血圧、体温を測り、記録表をつけ、個人の変化にすぐ気づき対応できるよう努める。変化に合わせてすぐに医療機関を受診するよう提携医とも連携がとれている。	○	日頃から状態変化に気づく事が出来るよう、コミュニケーションや動き、顔色に注意しておく。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳をもとに、個人別の薬の表を作成し、理解に努めている。薬の量や、種類が変わった時は、職員間の申し送りノート記載や口頭での申し送りをし、伝達し間違いのないよう努める。また経過については、その都度主治医に報告し指示を受けている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士の立てた栄養バランスのよい食事の提供と、日々取り入れている体操や運動レクリエーションの実施による運動量の確保、定期的な水分摂取で便秘予防に努めている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの時間を設けその方の口腔状態に応じて用具を選択して援助している。年に一度、歯科検診を受けて頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一人ひとりの状態に応じた形態で提供し摂取量を記録している。水分摂取量は1日1500CCを目標として摂取表に記録している。	○	〈取り組んでいる事〉 主食のみに偏りがちな方には副食の摂取も声かけて勧めている。メニューについては栄養士の作成したものに基づき、料理し、月に2度ずつ希望昼食、おやつ作りを設定し、出来るだけ利用者の嗜好品を取り入れる事が出来るよう心がけている。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作り、会議の時間を利用し、職員に研修行っている。日頃より一行為一手洗いを全職員で実行している。	○	繰り返し、会議や日中の申し送りでも意識し合い、防止に努めてゆく。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板は除菌スプレー(塩素系)で殺菌消毒行っている。1日3回食後に行い、調理担当者がサインを行うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花壇などがあり、2階までの階段には絵や手作りの利用者の写真付きの作品などを飾って、2階入り口にも花を生け、明るい雰囲気づくりを心がけている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ音量、照明に配慮し、花を生けたり、気候のよい時は、ベランダの扉を開放、天窓を開け、風を入れるなどすることで居心地よく過ごして頂けるよう努めている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルにそれぞれ座り、テレビを見たり、ホールに設置している畳に腰掛けられるスペースをもうけることで、1人になれる空間づくりに努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前愛用された物をお持ち頂いて自由に居室づくりをして頂いている。エアコン、カーテン、ベットは施設備え付けのものであるが、収納ダンス、寝具類、小物等は利用者愛用品や好みの物を持ち込まれている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中、夜間、定期的に換気を行い、空気のよどみに気をつけている。天気の良い日や夏期は天窓を開け、自然の光と風を取り入れられるようにしている。居室ごとのエアコンは温度設定に配慮し、快適に過ごして頂けるよう気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や家具の配置は注意し、常に利用者の動線に支障のないように配慮している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	理解して頂けるようにわかりやすく説明を加えながら、混乱を防ぐように努めている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに花壇を作り、利用者と花や野菜を育てている。洗濯物干しも、利用者の方々と一緒に行うようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム内だけの生活にならないように、メリハリがあり楽しみごとの多い生活を送れるように努めています。デイサービスや階寿園の方々との交流の機会もあります。